

シネマ

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

Ciné-là

3

No.103

fiaf

国際フィルム・アーカイヴ連盟=FIAFは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAFに加盟しています。



特別企画

日活映画史

日本映画史をリードしてきた
製作会社の歴史をたどるシリーズ。
第1弾は日本で最も古い
大手映画製作会社で、
挫折を乗り越え復活を果たす日活。



狂った果実



紅の拳銃



丹下左膳余話 百萬両の壺



乳母車

第1週 輝ける日活のスター達

泥だらけの純情／南国土佐を後にして
紅の拳銃／拳銃〈コルト〉は俺のパスポート
けんかえれじい

第2週 日活名作劇場

キューポラのある街／にあんちゃん／土
丹下左膳余話 百萬両の壺／八月の濡れた砂

第3週 永遠の裕次郎

嵐を呼ぶ男／狂った果実／乳母車
幕末太陽伝／憎いあんちくしょう
赤いハンカチ

日活映画史

第1週 輝ける日活のスター達

おすすめ 泥だらけの純情

3月2日(水) 14:00 3月6日(日) 14:00

1963年/35ミリ/モノクロ/91分

監督:中平康/出演:吉永小百合、浜田光夫

ヤクザの次郎は親分に頼まれ麻薬取引に向かう途中、不良学生に絡まれている外交官の令嬢・真美を助ける。真美の純粋さに惹かれる次郎、一方真美も次郎に好意を抱くのだ。ある日突然、次郎のアパートに真美が直接お礼をいうために訪ねてくる。これがきっかけで二人は交際を始めるのだが、二人の環境はあまりに違いすぎた。真美の母親は次郎と別れさせるために真美を外国の父親の元に送ろうとする。一方次郎は組の麻薬取引の肩代わりとして警察に自首するよう親分に言われる。次郎の部屋に別れを告げに来た真美は、そのまま次郎と逃避行するのだが、ヤクザによる外交官令嬢誘拐事件として大騒ぎになってしまう。

「キューボラのある街」でブレイクした吉永小百合と浜田光夫のゴールデンコンビによる作品です。昨今日本では純愛ブームと言われ、「世界の中心で、愛をさけぶ」などの作品がヒットしています。ところが40年前にどの作品にも劣らぬ純愛映画が日本にはあったのです。吉永小百合の可憐さ、吸い込まれそうな大きな瞳、そして浜田光夫の生きの良い演技は本作の大きな魅力で、今見ても感動を呼びます。実際の作品は77年に山口百恵、三浦友和コンビでリメイクされますが、それだけでなく64年に「裸足の青春」(監督:キム・ギドク 主演:シン・ソンイル オム・エンナン)という題で韓国でもリメイクされています。またラストで二人が雪の中で戯れる場面は、昨年大きな話題となった韓流ドラマ「冬のソナタ」の中の場面ともよく似ています。ぜひ自分で確かめてみてはいかがでしょうか。



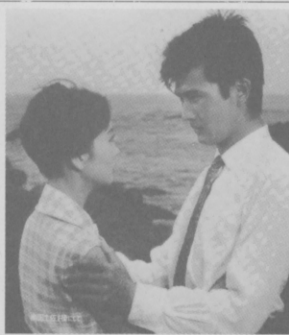
南国土佐を後にして

3月4日(金) 19:00 3月6日(日) 11:00

1959年/35ミリ/カラー/78分

監督:斎藤武市/出演:小林旭、浅丘ルリ子

刑務所を出所した譲司は故郷の高知に帰るが、地元のヤクザのボスに恋人を奪われ就職もままならない。やむなく東京に出た譲司だが、そこにも昔のヤクザ仲間が待っていた。ベギー・葉山が歌う同名曲を使った歌謡映画。本作で小林旭は石原裕次郎と並ぶスターとなる。



紅の拳銃

3月4日(金) 14:00 3月5日(土) 14:30

1961年/35ミリ/カラー/87分

監督:牛原陽一/出演:赤木圭一郎、笹森礼子

人生に悲観したトニーは、酒場で男と出会い、殺し屋のプロへと養成されていく。しかしトニーは密かに復讐の機会を狙っていた。非情な殺し屋の世界と赤木圭一郎ならではのロマンスが描かれる作品。この年、赤木圭一郎は21歳の若さで事故死する。



講演 穴戸錠が語る 日活映画黄金時代

3月5日(土) 11:00~11:45

出演:穴戸錠

司会:古山和子
(シネマコーディネーター)

プロフィール

54年に日活が募集した第一期ニューフェイスに合格し入社。本格的な映画デビューは55年の「警察日記」。アクション映画の敵役として売り出し、特に小林旭の「渡り鳥シリーズ」「流れ者シリーズ」、赤木圭一郎の「拳銃無頼帖シリーズ」では欠かすことのできない敵役となり、「エースのジョー」の愛称で親しまれる。主演第一作は61年の「ろくでなし稼業」。その他の主な主演作品に「拳銃<コルト>は俺のパスポート」(67年)「殺しの烙印」(67年)「みな殺しの拳銃」(67年)などがある。71年日活の終焉とともにフリーとなり、テレビや映画で現在も活躍を続けている。



お申し込み方法 応募締切:2月24日(木) 必着。観覧料:1,000円

※往復ハガキに

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤「穴戸錠講演会観覧希望」

とご記入の上、福岡市総合図書館映像資料課までご応募下さい。応募多数の場合は抽選となります。あらかじめご了承ください。お一人様往復ハガキ1枚で申し込んでください。

※講演は有料で、講演終了後の「拳銃<コルト>は俺のパスポート」とセット料金です。

※開場は開演の30分前。 ※前売り券はございません。

※障害者及び高齢者割引はございません。

※当日は当選ハガキをご持参の方のみ、映像ホール入口にて受付いたします。

また、Eメールでのお申し込みも可能です。

akiyama.k04@city.fukuoka.jpまで上記の内容を書いてお申し込みください。

上映作品 拳銃<コルト>は俺のパスポート 12:00より上映

拳銃<コルト>は俺のパスポート

3月3日(木) 19:00

1967年/35ミリ/モノクロ/84分

監督:野村孝/出演:穴戸錠、小林千登勢

殺し屋の上村は、雇われてヤクザの親分を射殺、相棒と共に逃亡を図る。しかしヤクザ同士の手打ちにより、今度は上村達が狙われることになる。藤原審爾の小説「逃亡者」を映画化した日活アクションの傑作。クールな殺し屋を穴戸錠が見事に演じている。



けんかえれじい

3月3日(木) 14:00 3月5日(土) 17:00

1966年/35ミリ/モノクロ/86分

監督:鈴木清順/出演:高橋英樹、浅野順子

昭和初期、岡山中学の麒麟は「けんかキロク」とあだ名される喧嘩好き。軍事教練で軍人にたてついたキロクは、会津に転校することになる。そんなキロクだが下宿先の道子にほのかな想いを寄せていた。高橋英樹が硬派の男を好演した、青春映画の傑作。



会期：平成17年 ※休館日・休映日除く

3月2日(水)～3月21日(月・祝)

第2週 日活名作劇場

キューポラのある街

3月9日(水) 14:00 3月12日(土) 11:00

1962年/35ミリ/モノクロ/99分

監督：浦山桐郎/出演：吉永小百合、浜田光夫

漁物の町、埼玉県川口市。職人気質で頑固な父親は不況のあおりで失業してしまう。聡明な娘のジュンは、貧しい家庭環境の中でも何とか高校に通おうとする。浦山桐郎監督のデビュー作で、当時18歳だった主演の吉永小百合が素晴らしい、一躍青春スターとなる。



にあんちゃん

3月10日(木) 14:00 3月12日(土) 14:00

1959年/35ミリ/モノクロ/101分

監督：今村昌平

出演：長門裕之、松尾嘉代

昭和28年。極度の不景気に見舞われた佐賀県の小さな炭坑街を舞台にした作品。両親を失いけなげに生きる4人兄妹の物語が、二女の末子の視点から描かれる。原作は当時10歳だった安本末子の日記で、沖村武はじめ子役達の好演が素晴らしい。



丹下左膳余話 百萬両の壺

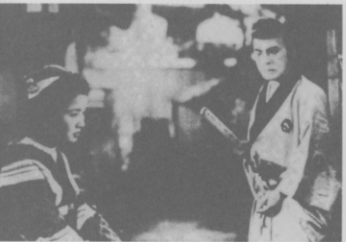
3月11日(金) 14:00 3月13日(日) 11:00

1935年/16ミリ/モノクロ/83分

監督：山中貞雄

出演：大河内伝次郎、花井蘭子

ひょんなことから孤児のチョビ安を育てることになった丹下左膳。しかしチョビ安がいとも持ち歩くコケ猿の壺は100万両の秘密を秘めていた。山中貞雄監督のテンポの良い演出とギャグが冴える傑作。まるでホームドラマのような時代劇である。



土

3月10日(木) 19:00 3月12日(土) 17:00

1939年/16ミリ/モノクロ/94分

監督：内田吐夢

出演：小杉勇、風見章子

撮影期間三年という長期にわたり、厳しい農民の生活を描き出した内田吐夢監督の戦前の傑作で、日本映画史を代表する名作。この作品の後「農民映画」というジャンルも生まれた。

※戦前の作品ため、映画の冒頭とラストが欠落しています。
また音声等の状態も良くありません。



八月の濡れた砂

3月11日(金) 19:00 3月13日(日) 14:00

1971年/35ミリ/カラー/91分

監督：藤田敏八

出演：広瀬昌助、村野武範

ある夏の朝、高校生の清は早苗という少女に出会う。そして清の友人で高校を退学になった健一郎の三人は大人社会の偽善に反発するのだが…。70年代の若者のやり場のないエネルギーとシラケを独特のタッチで描いた青春映画。



第3週 永遠の裕次郎

嵐を呼ぶ男

3月16日(水) 14:00 3月19日(土) 14:00

1957年/35ミリ/カラー/100分

監督：井上梅次

出演：石原裕次郎、北原三枝

国分正一は銀座で有名な暴れん坊。彼に目をつけた美弥子は、正一をジャストドラマーとして売り出していく。ライバルとのドラム合戦のシーンがあまりにも有名な本作により、石原裕次郎は一躍国民的大スターとなる。彼の歌う主題歌も大ヒットを記録している。



乳母車

3月17日(木) 19:00 3月20日(日) 11:00

1956年/35ミリ/モノクロ/109分

監督：田坂具隆

出演：石原裕次郎、芦川いづみ

ゆみ子は父親に愛人とさらには赤ん坊までいることを知りショックを受ける。しかしゆみ子と同世代の愛人の弟の宗雄の屈託のない言動に次第に心を通わせるようになる。石坂洋次郎の原作を映画化したもので、石原裕次郎の素直で明るい演技が好感を呼ぶ。



憎いあんちくしょう

3月18日(金) 19:00 3月21日(月・祝) 11:00

1962年/35ミリ/カラー/105分

監督：蔵原惟緒

出演：石原裕次郎、浅丘ルリ子

人気スター大作にはマネージャー兼恋人の典子がいるが、二人は倦怠期を迎えていた。そんな大作は九州の無医村にジープを運ぶという仕事を引き受ける。大作を連れ戻そうと追う典子。裕次郎が博多山笠の中に紛れ込む場面があるなど、蔵原監督のスピーディーな演出が光る作品。



狂った果実

3月17日(木) 14:00 3月19日(土) 17:00

1956年/35ミリ/モノクロ/85分

監督：中平康

出演：石原裕次郎、北原三枝

石原裕次郎の記念すべき主演第一作。石原慎太郎の原作を慎太郎自ら脚本化した作品で、「太陽族」と呼ばれた裕福な若者達の三角関係の物語が展開する。中平康監督の歯切れの良い才気溢れる演出はフランソワ・トリュフォーに絶賛されたことで有名。



幕末太陽伝

3月18日(金) 14:00 3月20日(日) 14:00

1957年/35ミリ/モノクロ/110分

監督：川島雄三

出演：フランキー堺、石原裕次郎

幕末期の日本、佐平次は品川の遊郭で金もないのに遊び、遊郭で働くことになる。この遊郭には高杉晋作などの勤皇の志士達が泊まっていた。フランキー堺が要領の良い佐平次を好演、川島雄三監督の代表作となった。石原裕次郎は高杉晋作役で出演。



赤いハンカチ

3月19日(土) 11:00 3月21日(月・祝) 14:00

1964年/35ミリ/カラー/98分

監督：舩田利雄

出演：石原裕次郎、浅丘ルリ子

横浜で麻薬ルートを追っていた刑事の三上は、参考人の男を誤って射殺してしまう。自分を許せない三上は刑事を辞めるが、これは三上の相棒だった石塚の仕組んだことだった。石原裕次郎、浅丘ルリ子のゴールデンコンビによる日活ムードアクションの最高傑作。





1	火	休館日
2	水	[14:00] 泥だらけの純情
3	木	[14:00] けんかえれじい [19:00] 拳銃<コルト>は俺のパスポート
4	金	[14:00] 紅の拳銃 [19:00] 南国土佐を後にして
5	土	[11:00] 中央館・拳銃<コルト>は講演会+俺のパスポート [14:30] 紅の拳銃 [17:00] けんかえれじい
6	日	[11:00] 南国土佐を後にして [14:00] 泥だらけの純情
7	月	休館日
8	火	休映日
9	水	[14:00] キューボラのある街
10	木	[14:00] にあんちゃん [19:00] 土
11	金	[14:00] 丹下左膳余話 百萬両の壺 [19:00] 八月の濡れた砂
12	土	[11:00] キューボラのある街 [14:00] にあんちゃん [17:00] 土
13	日	[11:00] 丹下左膳余話 百萬両の壺 [14:00] 八月の濡れた砂
14	月	休館日
15	火	休映日
16	水	[14:00] 嵐を呼ぶ男
17	木	[14:00] 狂った果実 [19:00] 乳母車
18	金	[14:00] 幕末太陽伝 [19:00] 憎いあんちくしょう
19	土	[11:00] 赤いハンカチ [14:00] 嵐を呼ぶ男 [17:00] 狂った果実
20	日	[11:00] 乳母車 [14:00] 幕末太陽伝
21	月(祝)	[11:00] 憎いあんちくしょう [14:00] 赤いハンカチ
22	火	休館日
23	水	休映日
24	木	休映日
25	金	休映日
26	土	休映日
27	日	自主上映【福岡映画サークル2005年第2回例会】
28	月	休館日
29	火	休映日
30	水	休映日
31	木	休館日



日活は1912年(大正元年)に、横田商会、吉沢商会など映画製作、興行を行っていた四つの会社が合併してできた会社です。そしてこの日活こそ日本で最初の大手映画会社ということになります。その後、天活や松竹、大活などといった映画会社が登場し、第一次世界大戦の好景気や大正デモクラシー、ハイカラブームといった時流に乗って、日本映画界は大きく発展していきます。

戦前の日活は他の映画会社と同様に時代劇、現代劇どちらも製作していました。現代劇にも溝口健二、内田吐夢、田坂具隆などの監督が在籍し、名作も多く残っていますが、当時の日活といえばやはり中心となるのは時代劇です。日本映画界最初の大スターとして活躍した尾上松之助は1909年(明治42年)、「日本映画の父」牧野省三に見いだされ、日活の前身、横田商会でデビューしました。松之助は、四社合併で日活のスターとなったのちも活躍しつづき、生涯に1000本近い作品に出演しました。1926年(大正15年)の彼の葬儀の際には会葬者5万人、葬列を一目見ようと沿道には20万人の人々が列をなしたといわれます。日本映画史最初の国民的スターとして映画の普及、大衆化にもっとも貢献した俳優でした。

松之助の亡くなった年に日活に入社したのが大河内傳次郎です。大河内は同じ年に日活に入った監督の伊藤大輔にスターとしての才を見いだされ、翌年にはスターの地位を確立します。特に伊藤と大河内は日本映画史上不朽の名コンビといわれ、「忠次旅日記・三部作」など数多くの名作を残しています。また伊藤以外にも内田吐夢、山中貞雄、

稲垣浩といった名監督と組み、「丹下左膳余話・百萬両の壺」などの名作、秀作に主演、1937年(昭和12年)に東宝に移るまで日活を代表するスターとして活躍しました。日本映画のサイレントからトーキーへの移行は、1930年頃から徐々に始まりますが、設備等に資金がかかるため、資金力のない中小映画会社や独立プロダクションが次第に統廃合され優秀な監督や俳優が日活などの大手映画会社へと吸収されていきました。この結果、大河内傳次郎と入れ替わるように日活に阪東妻三郎、嵐寛寿郎、片岡千恵蔵、それに月形龍之介という当時時代劇の大御所として名の知られていたスターが次々と入社していきます。また演出陣も松之助時代からの大御所、池田富保やマキノ映画出身で牧野省三の息子であるマキノ雅弘、鳴滝組の一人として知られ、千恵蔵プロで活躍していた稲垣浩などが豪華な顔ぶれが揃っていました。

太平洋戦争に突入し、戦時下統制が厳しくなってきた1941年、すでに十社に統廃合されていた劇映画会社を松竹、東宝とこの統合で生まれた新会社、大映の三社に統合することになります。そして日活の製作部門は大映に統合されることになり、「日活」は配給、興行部門のみが残ることになります。このため日活を支えたスターやスタッフ達は上記の三社に移りました。その日活が製作会社として復活するのは1954年(昭和29年)終戦から九年後のこととなります。

山本 幸
(映像調査員)

インフォメーション

■ビデオ編集技術研究室のご案内

ビデオ研究室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8・DV)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄)※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

■自主上映のお知らせ※詳細については、直接主催者にお問い合わせください。

■3月27日(日)福岡映画サークル2005年第2回例会

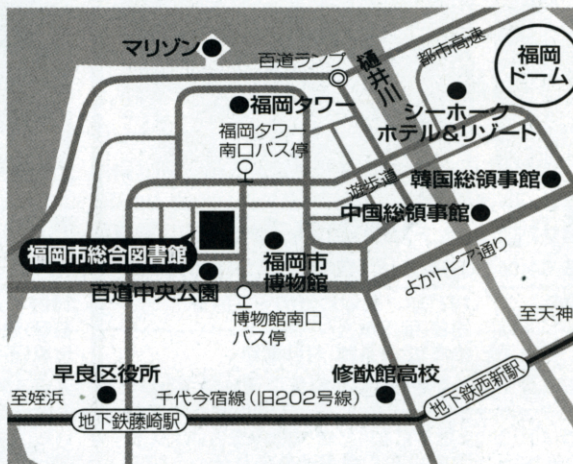
●白百合クラブ東京へ行く【11:00】【14:00】

観覧料/前売:1,200円 当日:1,400円 シニア:1,000円

主催/福岡映画サークル協議会(TEL092-781-2817)

公共交通機関ご利用のお願い

駐車場は図書館利用者の共用であり、映像ホール専用の駐車場はありません。駐車スペースに限りがあり、常時混雑しておりますので長時間の駐車はご遠慮いただいております。できるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします。土日祝日のご利用や1日に複数回の映画をご覧いただく場合などは、特にご協力をいただきますようお願いいたします。



交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄:
西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス:
天神~都市高速経由~福岡タワー南口(所要時間:昼間で約20分)

博多駅~都市高速経由~福岡タワー南口(所要時間:昼間で約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10~15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話:733-3333)に直接お問い合わせください。

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-la
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>